



01-02-06 おしりふき(肛門のまわりが赤い)

新生児や乳児期の子の診察では、診察台(=ベット)で行うことが多く、念のため、“おむつ”を外して“おしり”をチェックすることもしばしばあります。その際、肛門の周囲が赤い子を時々見かけますが、あまり気にしていないお母さん方も多いようです。最近では、育児用品の巧みな宣伝文句を信じて、“安心・安全”と思い込んでいる結果かも知れません。

そこで、育児用品売り場の“おしりふき”をチェックしてみると、『日本製。ノンアルコール、無香料、水 99.9%、水 99%、水 99%super、パラペン無配合、PG 不使用、乳液タイプ、肌にやさしい、肌へのいちばん等など・・・』。そのため、『“アルコール”や“香料”は肌が荒れるから使っていないし、99%以上も“水”で、“日本製”⇒赤ちゃんに“安心”』と思ってしまうよね。ところが、良く考えてみると“〇〇は使っていません”、“99%(99.9%)が水です“等とアピールしていますが、残りの 1%(または 0.1%)は、……？ 成分表を調べてみると“カタカナ”ばかりですが、いわゆる“殺菌剤”・“防腐剤”・“防カビ剤”・“保湿剤”などが入っています。今まで大丈夫だった皮膚も、何かが原因で少し荒れたりすると、その 1%の刺激でさらに赤味が広がることもあります。コマーシャルは“100%”と言っていません。使ってみて気になった時は、“今のこの子の皮膚に大丈夫か？”一寸(ちょっと)考える時間を取って下さい。

一方、最近の“紙おむつ”や“おしりふき”は、素材も進化し、初期に指摘された“むれ”や“かぶれ”は、かなり減っています。それでも、“お尻が赤くなる”時があるようです。その時は、昔のお母さんやおばあちゃんがやっていたように、柔らかいタオル(昔は、使い古しの布おむつを使用。使用後は必ず、洗濯・日光干しを)を“ぬるま湯”(=水より効果的)に浸し、ビジョビジョに近い状態で、やさしく叩くように拭いていると、2・3 日で“きれいなツルンとした肌”に戻ります。一度きれいになった皮膚は結構“丈夫”です。前のように“おしりふき”を使っても大丈夫のことが多いです。ただし、“ぬるま湯”で拭いても良くならない時は、カンジダなどのバイ菌が付いている時もあります。小児科または皮膚科の先生と相談して下さい。